事例No.	702
公表年度	H30
団体の属性	町村
団体名	栃木県茂木町

事例区分	第三セクター

タグ	・会社法法人 ・観光

事例種類	民間企業の立地が期待できない地域における事業実施

事例内容・タイトル

6次産業化による地域活性化と雇用の場の創出

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	6 次産業化による地域活性化と雇用の場の創出
団体名	栃木県茂木町
法人名	(株)もてぎプラザ

＜地方公共団体のデータ＞

人口(人)	13,353
標準財政規模(百万円)	4,415
財政力指数	0.41

※人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 30 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 29 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況](平成 30 年 3 月 31 日時点)

茂木町	(90%)
その他	(10%)
役職員数(人)	4

[経営状況](平成 29 年度決算)

経常収益	1,060
経常損益	13
当期純損益	10

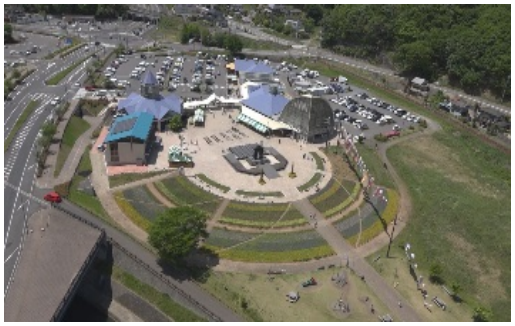
(単位:百万円)

資産	300
負債	100
純資産	163

[法人概要](設立目的、業務概要等)

(株)もてぎプラザは道の駅もてぎの運営を目的として、茂木町などによって平成 11 年に設立され、地元農産物や商工品等の販売を中心とした事業を実施し、農・商・観のネットワークによる茂木町の地域振興に寄与してきた。その後、6 次産業化の推進を目的とし、平成 24 年にもてぎ手づくり工房を設置し、道の駅もてぎオリジナル商品の開発・製造・販売を一貫して行うことにより、地元生産者からの農産物の買い上げにより生産者の収入増はもちろんのこと、若手農家の育成を手助けし、衰退しつつある茂木町の農業を活性化させる役割も果たしてきた法人である。

道の駅もてぎ外観



手作り工房外観



1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

当該事例は、(株)もてぎプラザの 6 次産業化の推進により、地元生産者の収入増加や雇用の場の創出に成功した事例である。

具体的には東日本大震災の風評被害等による農業の衰退や、地理的条件等による民間企業の誘致が期待できないという課題がある中、これを解決するために(株)もてぎプラザが先頭に立ち、農業生産者の収入や茂木町における雇用機会の増加を図るため、平成 24 年に「手づくり工房」及び平成 27 年に「バウム工房ゆずの木」をオープンさせ、農家の収入・雇用機会の減少の課題を解決した。

2．取組の背景、理由、着手のきっかけ

道の駅もてぎは平成17年より、農家から農産物の買取りを行い、その農産物を他業者に製造委託することによって商品化を行ってきた。しかしながら、東日本大震災の影響による風評被害等によって、これまで右肩上がりの成長を続けてきた道の駅もてぎも初めて売上が減少した。

そのような背景から、地元農家の収入源の確保・町内の雇用機会の拡大・道の駅もてぎの売上増加を目標に「手作り工房」や「バウム工房ゆずの木」をオープンさせ、課題の解決に乗り出した。

＜道の駅もてぎ売上推移（平成 8～29 年度）＞

（単位：千円）

平成8年度	平成9年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
145,100	260,700	341,400	388,200	403,000	452,600	484,200	540,400	540,700	551,400	586,000	614,000	650,000

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
671,000	668,700	633,900	689,727	724,161	820,185	947,460	1,061,190	1,043,271

3．取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

東日本大震災の影響による、農業生産者の収入減少や、企業誘致に不利な地理的条件による、働く場の減少など、茂木町として早急な対策が求められていた。

上記の課題を解決するため、茂木町をはじめ、道の駅もてぎを運営する（株）もてぎプラザが中心となり、地元農業生産者の収入増加及び茂木町の雇用機会を創出するため、道の駅もてぎによる 6 次産業化が始まった。

(2)取組の具体的な進め方

平成22年度に茂木町長をはじめとして町執行部及び茂木町議会の承認を得ると同時に（株）もてぎプラザの株主総会において、茂木町で「手づくり工房」の建設を進める旨の報告を行い、承認されたことを受け、ハード面の整備については茂木町が、運営に関しては（株）もてぎプラザが行うことで「手作り工房」の建設事業を開始した。

平成23年度農山漁村活性化プロジェクト支援交付金の採択を受け、茂木町が「手作り工房」の建設に着手し、（株）もてぎプラザに運営を委託することで、平成24年5月より供用を開始した。

茂木町内のゆず、ブルーベリー、イチゴ等の農産物を一次加工し保管すると共に、ジャム、ドレッシング等の二次製品作りに取り組むことで、地域雇用の創出と地域農業の発展による地域振興を図り、製造された商品は道の駅もてぎで販売している。オープン当初は 3 商品の製造であったが、現在では約 40 商品の製造を手掛けている。平成 28 年 3 月には、本町の米消費拡大及び、地元産たまごの有効活用を目的とし、新たに洋菓子加工に取り組み、バウムクーヘン事業に着手した。今後も今まで以上の商品づくりを展開しながら、広く PR を行っていく。

4．取組の効果

働く場が少ない本町にとって、雇用機会が増えたことにより、今まで女性中心の職場であった道の駅もてぎも、男性従業員の数が増加した。(H23 年 71 人中男性 7 人⇒H30 年 8 月 109 人中男性 22 人)このことにより、企業としてしっかりとした組織体制が構築でき、雇用の場の提供に寄与している。

また、平成 17 年当初の農産物の買取は「ゆず」のみを行っており、各農家に合計 469,000 円を支払っていたが、平成 29 年度には「ゆず」だけではなく、「いちご・ブルーベリー・えごま・りんご・梅・米」の買取まで拡大し、各農家に 16,896,000 円の支払いをするまでに増加した。

さらに平成 28 年 3 月「バウム工房ゆずの木」をオープンさせ、バウムクーヘン事業に着手することにより、町内産の米消費の拡大及び地元産のたまごの有効活用を図り、平成 29 年度には 724,000 円の米の買上げ及び 2,157,000 円のたまごの買上げを行っている。

これにより農家は安心して農産物等の栽培に取り組むことができ、お客様にも安定した商品提供ができるようになった。

＜手づくり工房建設による農産物の買上げ金額(平成 17～29 年度)＞

(単位:千円)

平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
469	418	1,245	2,060	2,019	3,199	3,077	3,144	6,444	9,784	17,156	17,976	16,896

＜バウム工房オープンによる米及びたまごの買上げ金額(平成 27～29 年度)＞

(単位:千円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
米	77	884	724
たまご	252	3248	2157

5．今後の課題(今後の方針、残された課題等)

新商品の開発を引き続き行っていくと共に、販路拡大・インターネットを含めた通信販売での展開など、今後は PR 範囲を拡げ、これらの商品を通じて、茂木町の名を全国に広めていきながら、今まで以上に多くのお客様が本町を訪れてくれるような観光地域に発展させていきたい。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	茂木町地域振興課	連絡先	0285-63-5671